

「海技士」資格に挑戦 男鹿海洋高・近藤さん

洋上風力事業担い手に

男鹿海洋高校（船大和則校長）の近藤凌さん（17）は3年が、大型船の組員に必要な「海技士」資格の機関部門3級筆記試験に初受験で合格を果たした。同校によると、2004年の開校以来初の合格者。

学校初、3級筆記合格



同校は、生徒が卒業後に、県内の洋上風力関連事業の担い手になることを期待。昨年からは希望する生徒に海技士の筆記試験に向けた補習を行った。また全国的に船舶の機関士が不足していることに着目し、特に機関部門の資格取得を後押ししてきた。

「海の上で働くことに昔から興味があった」と語る近藤さん。秋島俊文教諭（39）の勧めで昨年、同級生数人と一緒に放課後に毎日約2時間の補習を受け始めた。

近藤さんは昨年4級に合格した後、半年ほど期間を空けてから3級の勉強を始めた。日々の補習のほか、「通学の列車内や、休みの日も、時間さえあれば参考書を開いて問題を解いた」と近藤さん。「なまはげ太鼓」の部活動も半年近く休んで勉強に取り組んだ。

同校には「機関室」と呼ばれる教室があり、10年前に建てられた。同校の大型実習船「船川丸」（488トン）に搭載されているエンジンが置かれている。商船などの機関士として10年の経歴を持つ同校の佐藤茂臨時講師（70）の指導で、実物を見ながらエンジンの仕組みを学び、試験に備えた。



臨時講師の佐藤さん（左）からエンジンの仕組みを学んだ

近藤さんは4月中旬に仙台市で受験し、下旬に合格が分かった。

海技士の資格を得るには筆記試験のほか一定期間の乗船履歴が必要。以前は船川丸で乗船経験を積むことができたが、現在は県内の専門の教育機関に進学するか、大型船に乗り組む仕事を就くほかなくなった。

卒業後はすぐに県内の洋上風力関連の事業所で働きたいという近藤さん。秋島教諭は、

「県内の洋上風力事業は保守管理などで今後数十年続く事業となる。県内企業で若者を育て、県内出身の機関士を増やしていく、という機運が高まっていく」と語る。

同校にはほかにも、海技士4級の筆記合格者や、3級合格を目指している生徒が数人いる。秋島教諭は「洋上風力関連の仕事に就きたいという生徒が多い。洋上風力に携わる人材を継続的に輩出していきたい」と語った。

（佐沢幸徳）